

⑩実用新案公報

⑭公告 昭和44年(1969)7月22日

(全2頁)

1

⑮ガス吸入用マスク

①実 願 昭41-65727

②出 願 昭41(1966)7月13日

③考 案 者 出願人と同じ

④出 願 人 菊野好二

東京都文京区本郷2の22の2二
業器械株式会社内

代 理 人 弁理士 荒木友之助 外1名

図面の簡単な説明

図はこの考案の一実施例を示し、第1図は正面
部よりみた一部切欠斜視図、第2図は背面部より
みた斜視図、第3図は使用状態を示す縦断面図、
第4図は同一部切欠斜視図である。

考案の詳細な説明

この考案は手術などにおいて患者に麻酔ガスな
どを吸入させる場合に用いるガス吸入用マスクに
関するものである。

麻酔ガスを患者に吸わせ、麻酔をかける場合、
医学的にみて吸入マスクは顔面に密着していな
ければならない。例えばマスクが密着していな
かつた場合において麻酔ガスは当然漏れを生じ、患者
の麻酔深度の変化や出血の度合の変化を起す原因
となつたり又、そのために患者があばれたり麻酔
がかからなかつたりするなど患者に与える影響は
極めて大きいものであつた。

ところが、従来一般に用いられていたガス吸入
用マスクは、単に楕円形をなし鼻口を覆うだけの
構造であつたため、顔面に密着せずガス漏れが生
じ易く上記の如き弊害が多々起つていたものであ
つた。しかして、これらの弊害を起こさないため
には看護婦などがマスクを押えていなければなら
ず、非常に面倒であつた。そこで、この考案はマ
スク内を二重構造とし、顔面の大小があつても又
顎がない者でもよく密着するようにしたものであ
る。

以下、図面に示す実施の一例によりこの考案を
説明する。

2

1は患者aの鼻口部bから顎cまでを覆うこと
ができるマスク本体であつて、ゴム状の弾性体
をもつて構成してある。2はマスク本体1の鼻口部
bに相当する前面部3に設けたガス送入口であつ
て、ガスボンベ(図示せず)よりガス管(図示せ
ず)を介して連通する。4はマスク本体1の顔面
接触端縁部5を残し、内壁面6に沿つて直交する
如く突設した吸盤であつて、マスク本体1と同材
にて一体に形成されている。該吸盤4は第4図に
示す如く顔面に平面的に接触する。これに対し、
マスク本体1の顔面接触端縁部は顎cを除いて堅
状に接触するものである。

尚図中、7は紐取付金具、8はマスク本体1を
顔面に固定する紐を示す。

以上の如く、この考案は鼻口部に相当する前面
部にガス送入口を有し、鼻口部から顎まで覆うこ
とができるマスク本体を設け、該マスク本体の顔
面接触端縁部を残し、内壁面に沿つて、これに直
交する如く突設した吸盤を設けてなるガス吸入用
マスクであり、まずマスク本体1を患者aの鼻口
部bから顎cまでを覆うごとく当て、次に取付金
具7に取付けた紐8を後頭部に廻してかぶれば、
マスク本体1を顔面に固定することができる。し
かして、マスク本体1の鼻口部bに相当する前面
部3に設けたガス送入口2にガス管(図示せず)
を連結してガスボンベからの麻酔ガスを流せばマ
スク本体1内にガスが収容され患者aにガスを吸
入させることができる。この場合マスク本体1の
端縁部5と吸盤4とが顔面に二重に接するよう
になるため、完全に密着するものである。換言す
れば本案のマスクは二重構造となつているため、人
によつて顔面積の大小があつた場合でも或は老人
などのように顎がない者があつた場合でもよく密
着するものである。

従つて、麻酔ガスの漏れによつて、患者の麻酔
深度の変化などを起す危険は全くなつたし、
又看護婦などの手を全く借りることなく、マスク
を使用することができるものである。

3

4

実用新案登録請求の範囲

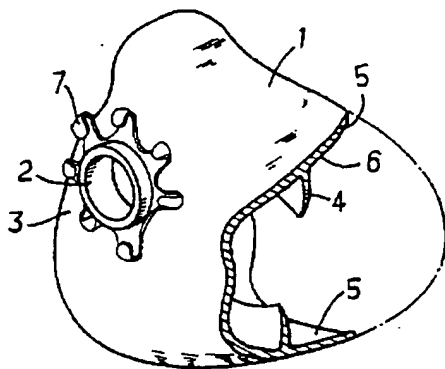
鼻口部に相当する前面部にガス送入口を有し、鼻口部から顎までを覆うことができるマスク本体を設け、該マスク本体の顔面接触端縁部を残し、内壁面に沿つて、これを直交する如く突設した吸

盤を設けてなるガス吸入用マスク。

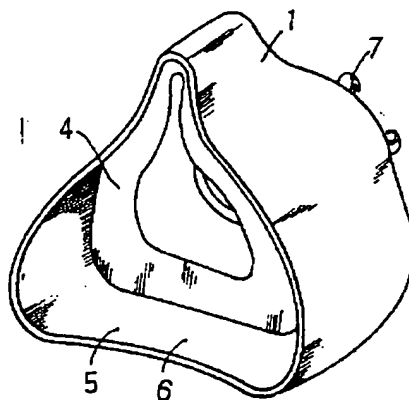
引用文献

5 実 公 昭9-10559

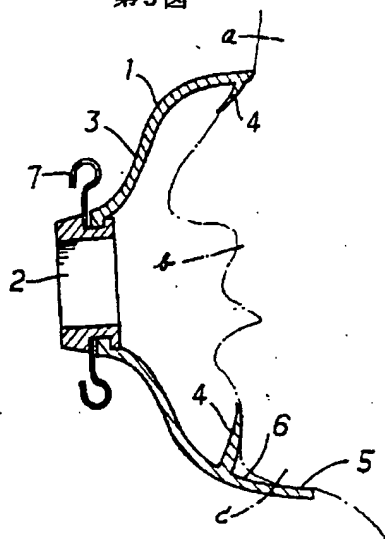
第1図



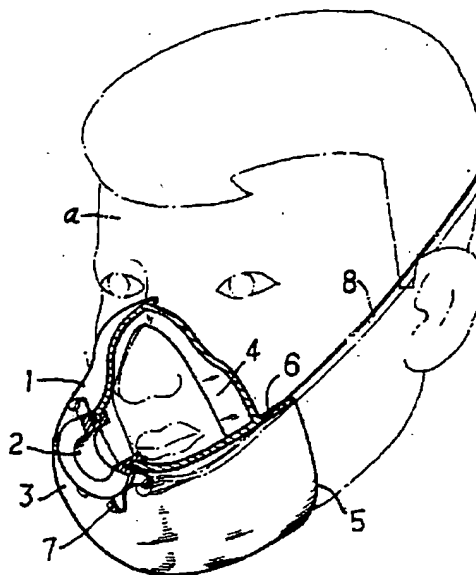
第2図



第3図



第4図



Preliminary Notice of Rejection

Application No.: 508323/1998

Date of Service: July 1, 2003
(Date Mailed)

This application is to be rejected on the grounds as set forth below. A response to this Office Action should be made within three months from the date of service.

GROUND OF REJECTION

1. The present application does not satisfy the requirements provided in Section 37 of the Patent Law, in the following points.

NOTES

The cushion as defined in claim 1 has not novelty, as described in the following Cited References.

The problems which the invention of claim 1 is intended to solve has already been solved, and therefore, it is not recognized that there had been the same technical problems which had not been solved by the time of filing the present application and which the invention of the present application is intended to solve, between the cushion of claim 1 and the cushions of claims 2 to 6, between the cushion of claim 1 and the nasal masks of claims 7 to 14, and between the cushion of claim 1 and the nasal CPAP treatment apparatuses of claims 15 to 22.

In addition, it is not recognized that there are the same essential matters in relation to the novel constitution corresponding to the problems to be solved, between the cushion of claim 1 and the cushions of claims 2 to 6, between the cushion of claim 1 and the nasal masks of claims 7 to 14, and between the cushion of claim 1 and the nasal CPAP treatment apparatuses of claims 15 to 22.

Further, these inventions do not come under any of Subsections 3 to 5, Section 37 of the Patent Law.

Because the present application is not in conformity with the provision of Section 37 of the Patent Law, the inventions according to claims other than claims 1 to 6 are not examined with respect to the requirements stated in Sections other than Section 37 of the Patent Law.

2. The invention as claimed in the following Claim(s) in this application is substantially identical with or anticipated by the invention disclosed in the document(s), listed below in CITED REFERENCE(S), made available in Japan or foreign countries prior to the effective filing date of this application. Accordingly, this application will be rejected under Sec. 1, para. 3, of Art. 29 of the Japanese Patent Law.

Note

- Claims 1 to 6
- Cited Reference 1, 2 or 3
- Remarks

Cited Reference 1, 2 or 3 discloses a cushion for a mask, comprising members which are equivalent to "a flame", "a rim", "a membrane" and "a cavity" comprised in the invention of the present application.

Therefore, the inventions according to claims 1 to 6 of the present application are those disclosed in the above Cited References.

3. The invention as claimed in the following Claim(s) in this application is obvious to those skilled in the art from the document(s), listed below in CITED REFERENCE(S), made available in Japan or foreign countries prior to the effective filing date of this application. Accordingly, this application will be rejected under Sec. 2 of Art. 29 of the Japanese Patent Law.

Note

- Claims 1 to 6
- Cited Reference 1, 2 or 3
- Remarks

Cited Reference 1, 2 or 3 discloses a cushion for a mask, comprising members which are equivalent to "a flame", "a rim", "a membrane" and "a cavity" comprised in the invention of the present application.

Therefore, the inventions according to claims 1 to 6 of the present application could be easily anticipated by those skilled in the art, from the above Cited References.

List of Cited References

1. U.S. Patent No. 2931356
2. Japanese Examined Utility Model Publication No. 16955/1969
3. European Patent Publication No. 264772

Record of Researched Results of Prior Art Literature

- Field researched: A61M 16/06, IPC, the seventh edition
- Prior art literature: Nil

The record of the researched results of the prior art literature should not be construed as constituting the grounds for rejection in any way.

発送番号 219470

発送日 平成15年 7月 1日 1 / 3

拒絶理由通知書

特許出願の番号 平成10年 特許願 第508323号
起案日 平成15年 6月20日
特許庁審査官 中田 誠二郎 9252 3E00
特許出願人代理人 青山 葆 (外 1名) 様
適用条文 第29条第1項、第29条第2項、第37条



この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から3か月以内に意見書を提出して下さい。

最終期日
10月1日

理 由

1. この出願は、下記の点で特許法第37条に規定する要件を満たしていない。

記

請求項1記載のクッションは、下記引用文献にも記載されているように、新規なものではない。

ならば、請求項1記載の発明が解決しようとする課題はすでに解決されたものであるから、請求項1記載のクッションと請求項2-6記載のクッション、請求項1記載のクッションと7-14記載の鼻マスク、請求項1記載のクッションと15-22記載の鼻の持続的陽圧気道治療装置との間に、出願時まで未解決であった、発明が解決しようとしている同一の技術上の課題があるものとは認められない。

また、請求項1記載のクッションと請求項2-6記載のクッション、請求項1記載のクッションと7-14記載の鼻マスク、請求項1記載のクッションと15-22記載の鼻の持続的陽圧気道治療装置との間に、解決しようとする課題に対応した新規な構成に係る事項である同一の主要部があるものとも認められない。

さらにこれらの発明は、特許法第37条第3～5号のいずれに該当するものでもない。

この出願は特許法第37条の規定に違反しているので、請求項1-6以外の請求項に係る発明については同法第37条以外の要件についての審査を行っていない。

2. この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記の刊行物に記載された発明であるから、特許法第29条第1項第3号に該当し、特許を受けることができない。

記

- ・請求項 1-6
- ・引用文献等 1又は2又は3
- ・備考

引用文献1又は2又は3には、本願発明における「フレーム」、「リム」、「薄膜」及び「キャビティ」に相当する部材を備えたマスクに用いられるクッションが記載されている。

本願請求項1-6記載の発明は、これらの引用文献に記載されたものである。

3. この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記 of 刊行物に記載された発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

記

- ・請求項 1-6
- ・引用文献等 1又は2又は3
- ・備考

引用文献1又は2又は3には、本願発明における「フレーム」、「リム」、「薄膜」及び「キャビティ」に相当する部材を備えたマスクに用いられるクッションが記載されている。

本願請求項1-6記載の発明は、これらの引用文献より当業者が容易に想到できるものである。

引用文献等一覧

1. 米国特許第2931356号明細書
2. 実公昭44-16955号公報
3. 欧州特許出願公開第264772号明細書

先行技術文献調査結果の記録

- ・調査した分野 IPC第7版 A61M 16/06
- ・先行技術文献 特になし

発送番号 219470

3 / 3

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。